

第7章 ビジネス支援サービス

物流

加速する「IT物流」 定着からさらなる効率化への競争激化

物流におけるインターネットの活用が活発化している。企業物流においては、さらなる効率化、SCM（サプライチェーン・マネジメント）への取り組みが見られ、物流事業者においては、業務効率化、新サービスの提供、トラックと貨物のマッチングサービスなど、多くの局面でインターネットの活用が広がった。ITをベースとした物流の再構築、つまり「IT物流」の進展が顕著である。

インターネットが効率化を支援

これまで物流効率化を阻む最大の要因であった「情報制約」という壁が徐々に取り払われようとしている。

物流を効率的に運用するためには、市場に何がどれだけ出荷されているかという出荷情報が不可欠だ。しかし、これまで多くの企業においてこの情報が不在であったといってもよい。企業内の縦割りの情報システムでは企業横断的な在庫情報が取得できなかったためである。

そのため、企業の物流部門では、必要な情報が不在という中で「見込み」による物流を余儀なくされていた。見込みで商品を動かすため、市場のニーズとのミスマッチが多発し、欠品による販売ロスの発生や過剰在庫による無駄の発生が日常的に多発していた。

現在、多くの企業でインターネット技術を使った社内情報を共有するためのシステム開発が展開されている。これにより在庫データが共有化されれば、物流効率化が一気に進展するものと期待される。

SCM実現に向けた展開

出荷情報の共有は、企業内にとどまらず、企業間に広がろうとしている。大手スーパーチェーンでは、インターネットを使って自社の販売情報をメーカーなどに

公開しはじめている。いわゆるPOS情報の公開である。

メーカーが市場最前線の販売動向を共有できることになれば、商品を市場へ供給する仕組みは大きく変わる。これまで、市場の需要動向は「注文」という活動を経て川下から川上に向かって伝えられた。ところが、この注文には発注者の思惑や都合が入り込み、結果として市場の動向とはかけ離れたものになっていたことは否めない。

かけ離れていたということは、欠品や不要な在庫を発生させるということを意味する。ここに大きな無駄が生まれていた。インターネットによる販売情報の共有は、市場の需要を正確に伝えることができ、必要なものを必要なところに送り込む、理想的な供給を可能にする。これがいわゆるSCMと呼ばれる取り組みであり、インターネットを活用した物流効率化の手法としては最も期待が寄せられている。

もはや必須の在庫情報提供サービス

インターネットならではのサービスといえるのは、荷主企業から在庫を預かっている物流事業者が、その入出荷の状況、在庫残高をホームページを使って荷主企業に情報提供するというものである。

荷主企業にとっては、これまで自社の情報システムでは把握できなかった情報であり、また物流をコントロールするにあたって不可欠な情報でもあることから、有用なサービスとして高い評価を得ている。ホームページを利用しているため、インターネットにつながるパソコンさえあれば、企業規模の大小を問わず利用できるという点でも有効である。

今後、このようなサービス提供は、在庫を預かっている物流事業者においては欠くことのできないものになるといえる。

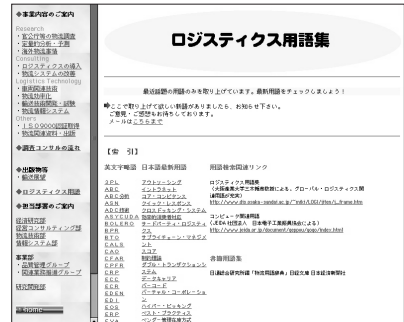


図1 日通総研のロジスティクス用語集
www.nittsu.co.jp/soken/lg-info.htm

インターネットが生んだ新サービスの典型とってよい。

競争が激化するトラックと貨物の「マッチング」サービス

物流の世界でネットビジネスとして注目を集めているのが「求車求貨システム」である。「運んでもらいたい」貨物と「運びたい」トラックをマッチングさせるビジネスであり、現在、すでに50以上のサイトが立ち上がっている。

ネットビジネスの典型的なものといえるが、これは大別すると、マッチングで商売をするビジネス型と、これまで電話やファックスで行っていた類似の事業をネットで行うという従来型とに分けられる。

これらのうち後者はこれまで行っていた業務の効率化にインターネットを使っているという点でそれなりの効果が出ているが、問題は前者のビジネス型において取手を合わせるのが難しいという点である。マッチング率の低さや手数料の高さに嫌気がさして、アクセス件数が落ち込んでいるサイトも少なくない。現在、まさに生き残りを賭けた競争が行われているという状況にあるといえるだろう。

(湯浅和夫 株式会社日通総合研究所取締役)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp